

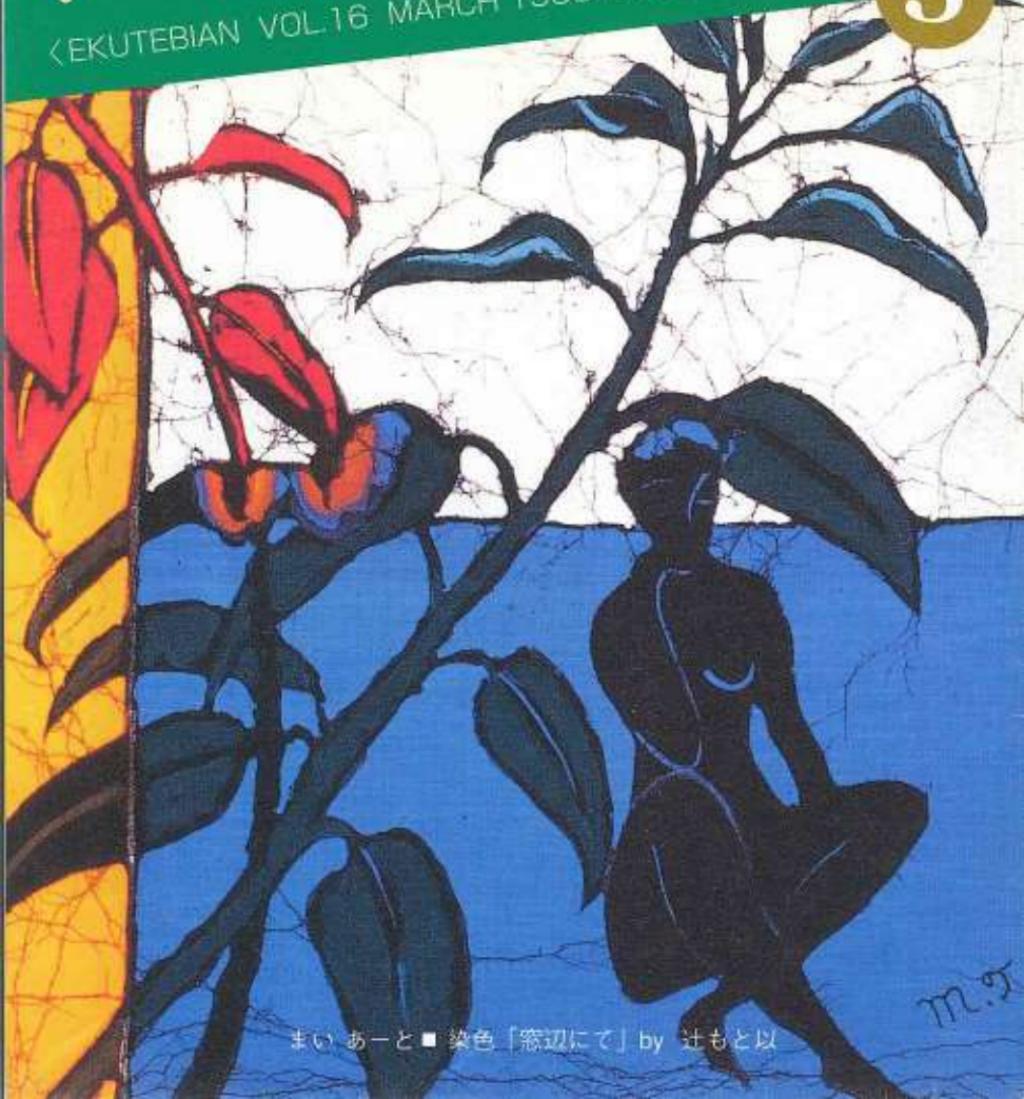
月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

3

〈EKUTEBIAN VOL.16 MARCH 1998 EKUTEBIAN〉



まい あーと ■ 染色「窓辺にて」 by 辻もと以

砂川九番の『地蔵菩薩』

享保三年、亡くなつた盲目の少女の供養のために造られたと伝えられています。以来、子供の病気を治す「子持ち地蔵」として砂川の人々によつて大事に祀られてきました。かつてはこのお地蔵様の足許に、小さなお地蔵様が無数に並べられていました。それは願が叶つた人々がお礼参りに一体づつ上げていったものだそうです。偶像崇拜と言つてしまえばそれまでですが、我が子をしつかと抱きしめ、お参りをする母親の姿を思い浮かべる時、今の時代には見ることのない母子の大切なスキンシップの形がここにあつたような気がします。お地蔵様を「拝む」ということは子供により深い愛情をそそぐ、ということなのかも知れません。

柳田国男を読む会 檜山泰子さん・談



●所在地：幸町4-16-2

●建立：享保3年（1718年）





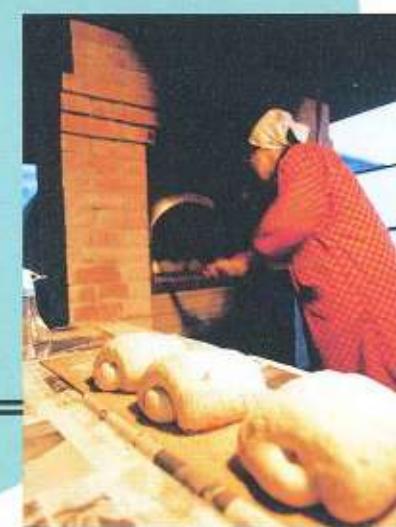
看板から店内・外装にいたるまで、すべて鈴木さんの手によるもの。センスが光る。



焼かれるのは「胚芽パン」と「ぶとうパン」の2種類。
早い時はお見前に売り切れてしまう。



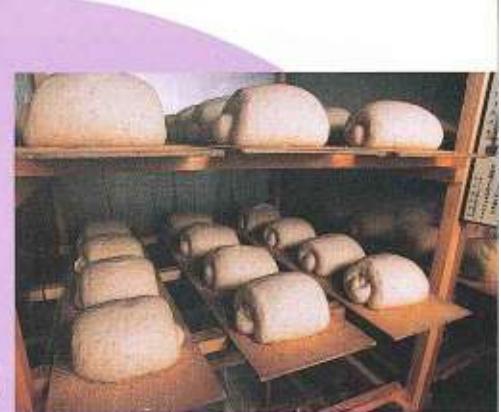
ご主人の英次郎さんは良き“理解者”。
仕事の合間をぬって奥さんの作業を見守る



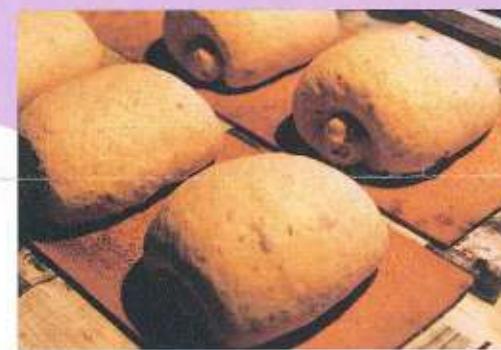
仕込みから何からすべて手作業。
1日に48個が限度。



薪はケヤキしか使わない。ここにもこだわりが。



窯に入れられるのを待つパンたち。
発酵は8~9時間かかる。



耐火レンガで作られた石窯の中。

私の立川原風景 第八回

第八回

佐治宵光（若葉町）



◆ 日野橋鉄橋 ◆

山形の高校を昭和54年に定年退職して上京し、立川の自宅に落ちついた年の翌年のスケッチである。この多摩川畔の立川市公園は富士山が見えて広く野球や散歩に快適である。

鉄橋が架けられ、初めて汽車が通る姿を見たのは、大正15年の秋、小学二年生の時。故郷福島の阿賀川の上流、会津線がわが町まで開通すべく、町の東側に鉄橋がかけられた時である。あれから70年位経ってしまった。今、それを思い出して郷愁の念やみ難く描かせたのである。懐かしい風景である。

汽車は電車に変り、行き交う人々も變ったが、ただ見ている風景は変らない。時の流れ